

- 【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に变形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関係図表に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表す力、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会的事象などから設定した問題について、データの取らばや因果関係の関係をなどに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第一章 数と式 【知識及び技能】 式を扱うための基本的な用語や計算方法について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 式を1つの文字に着目して整理したり、1つの文字におき換えたりするなど、目的に応じた式の見方ができるようにし、既に学習した計算方法と関連付けるなど、式を多面的に捉える力を培う。 【学びに向かう力、人間性等】 中学校での既習事項を元に新たな考えを構築したり、方法を考察したりすることができる。	・指導事項 自分で考えるだけでなく、周囲と協力し、深く学べるよう工夫する。 ・教材 NEXT 数学 I CONNECT 数学 I ・一人1台端末の活用 FORMSを活用した振り返り ONE NOTEで各自の考えの共有 視覚教材の利用 教材の蓄積 リモート授業	【知識及び技能】 用語の意味や使い方を理解している。公式や定理を使用して基本的な計算ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 新しく学ぶことを既習事項と結びつけることができる。少し複雑な計算をできる。複雑な式についても、まとまりを利用するなど工夫して解くことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 数と式の単元に関心をもち、考察しようとする。複雑な計算の工夫について、考察しようとする。複雑な問題について、振り返って考えたり、挑戦する姿勢が見られる。	○	○	○	10
	第二章 集合と命題 【知識及び技能】 集合と命題に関する基本的な概念や用語を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 基本的な概念を用いて命題を証明できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 集合や命題の概念を活用して事象を考察できる力を培う。	・指導事項 自分で考えるだけでなく、周囲と協力し、深く学べるよう工夫する。 ・教材 NEXT 数学 I CONNECT 数学 I ・一人1台端末の活用 FORMSを活用した振り返り ONE NOTEで各自の考えの共有 視覚教材の利用 教材の蓄積 リモート授業	【知識・技能】 用語の意味や使い方を理解している。集合の表し方を理解し、決まりに従って集合を表すことができる。 【思考・判断・表現】 1つの集合を複数の表し方で表すことができる。真の命題や偽の命題、命題ではない文の例を考え、他人が考えた命題や文が妥当か判断できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 命題の真偽や必要条件、十分条件について、集合と関連付けて理解したり説明したりしようとする態度がある。	○	○	○	9
	定期考査			○	○		1
	第三章 2次関数 【知識及び技能】 関数とそのグラフについて理解する。2次関数の最大値、最小値をグラフを用いて求められるようする。 【思考力、判断力、表現力等】 2次関数のグラフの特徴について、頂点の平行移動と関連付けて理解し、2次関数のグラフがかけられるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 2次関数を様々な事象の考察に活用しようとする姿勢が見られる。	・指導事項 自分で考えるだけでなく、周囲と協力し、深く学べるよう工夫する。 ・教材 NEXT 数学 I CONNECT 数学 I ・一人1台端末の活用 FORMSを活用した振り返り ONE NOTEで各自の考えの共有 視覚教材の利用 教材の蓄積 リモート授業	【知識及び技能】 用語の意味や使い方を理解している。公式や定理を使用して基本的な関数をグラフ化したり、平行移動ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 新しく学ぶことを既習事項と結びつけることができる。少し複雑な関数についてグラフを書いたり応用問題を解くことができる。与えられた条件から2次関数を完成することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 関数の単元に関心をもち、考察しようとする。応用問題の解法について、考察しようとする。複雑な問題について、振り返って考えたり、挑戦する姿勢が見られる。	○	○	○	13
定期考査			○	○		1	
2 学 期	第三章 2次関数 【知識及び技能】 条件から2次関数を決定できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 2次不等式も2次関数のグラフとx軸の関係から考察し、2次不等式が解けるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 2次関数を様々な事象の考察に活用しようとする姿勢が見られる。	・指導事項 自分で考えるだけでなく、周囲と協力し、深く学べるよう工夫する。 ・教材 NEXT 数学 I CONNECT 数学 I ・一人1台端末の活用 FORMSを活用した振り返り ONE NOTEで各自の考えの共有 視覚教材の利用 教材の蓄積 リモート授業	【知識及び技能】 用語の意味や使い方を理解している。公式や定理を使用して基本的な関数をグラフ化したり、平行移動ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 新しく学ぶことを既習事項と結びつけることができる。少し複雑な関数についてグラフを書いたり応用問題を解くことができる。与えられた条件から2次関数を完成することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 方程式、不等式の単元に関心をもち、考察しようとする。複雑な問題について、振り返って考えたり、挑戦する姿勢が見られる。	○	○	○	30
	定期考査			○	○		1
	第四章 図形と計量 【知識及び技能】 三角比の意味やその基本的な性質について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 複雑な三角比の問題も基本的な三角比と同様に工夫して解くことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 三角比を用いた計量を行うなど、三角比を事象の考察に活用しようとする姿勢が見られる。	・指導事項 自分で考えるだけでなく、周囲と協力し、深く学べるよう工夫する。 ・教材 NEXT 数学 I CONNECT 数学 I ・一人1台端末の活用 FORMSを活用した振り返り ONE NOTEで各自の考えの共有 視覚教材の利用 教材の蓄積 リモート授業	【知識及び技能】 用語の意味や使い方を理解している。公式や定理を使用して三角比を表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 新しく学ぶことを既習事項と結びつけることができる。少し複雑な図形について三角比の考え方を活用して解くことができる。様々な測量計算を三角比を用いて解くことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 三角比の単元に関心をもち、考察しようとする。複雑な問題について、振り返って考えたり、挑戦する姿勢が見られる。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
3 学 期	<p>第4章 図形と計量</p> <p>【知識及び技能】 正弦定理、余弦定理について理解している。三角形の面積も求められるようにする。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 正弦定理、余弦定理を適切に用いて三角形の辺や角を求められるようにし、これらのことを空間図形を含む様々な事象に活用できるようにする。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 三角比を用いた計量を行うなど、三角比を事象の考察に活用しようとする姿勢が見られる。</p>	<p>・指導事項 自分で考えるだけでなく、周囲と協力し、深く学べるよう工夫する。</p> <p>・教材 NEXT 数学 I CONNECT 数学 I ・一人1台端末の活用 FORMSを活用した振り返り ONE NOTEで各自の考えの共有 視覚教材の利用 教材の蓄積 リモート授業</p>	<p>【知識及び技能】 用語の意味や使い方を理解している。正弦定理、余弦定理、面積を用いて辺の長さや角度、面積を解くことができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 新しく学ぶことを既習事項と結びつけることができる。少し複雑な計算についても、考察し、理解することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 正弦定理、余弦定理、面積に関心をもち、考察しようとする。複雑な問題について、振り返って考えたり、挑戦する姿勢が見られる。</p>	○	○	○	15
	<p>第5章 データの分析</p> <p>【知識及び技能】 統計の基本的な考えや種々の統計量、特にデータの散らばりや相関を表す量について理解している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 データを分析し、様々な判断ができるようにする。また、仮説検定の考え方を理解し、それをもとにした判断ができるようにする。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 様々なデータの表し方や有用性に興味を示し、考察に活用しようとする姿勢が見られる。</p>	<p>・指導事項 自分で考えるだけでなく、周囲と協力し、深く学べるよう工夫する。</p> <p>・教材 NEXT 数学 I CONNECT 数学 I ・一人1台端末の活用 FORMSを活用した振り返り ONE NOTEで各自の考えの共有 視覚教材の利用 教材の蓄積 リモート授業</p>	<p>【知識及び技能】 用語の意味や使い方を理解している。様々なデータをグラフで表現することができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 新しく学ぶことを既習事項と結びつけることができる。分散や標準偏差、相関係数などの複雑な計算ができる。2つ以上のデータの特徴を理解し、考察することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 様々なデータに関心をもち、考察しようとする。与えられた情報から、必要なグラフを作ったり、グラフからその特徴を予想するなどの考察をすることができる。</p>	○	○	○	14
							105
	定期考査			○	○		1



# 令和4年度 年間指導計画

東京都立雪谷高等学校

教科・科目	数学Ⅱ (必修・必選・自選)	対象学年	2	単位数	4	予定授業時間	120
教科書	改訂版 高等学校 数学Ⅱ (数研出版)	担当者	廣井聡之・金子康範・逢坂範彦・田中信也				
副教材	4プロセス 数学Ⅱ+B (数研出版)						

目標		いろいろな式, 図形と方程式, 指数関数・対数関数, 三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに, それらを活用する態度を育てる。					
学期	時数	指導項目			指導内容		
1 学期	40	直線と円 ①点と直線 ②円の方程式 三角関数 ③ 角の拡張 ④ 三角関数とそのグラフ			①座標を用いて, 平面上の線分を内分する点, 外分する点の位置や二点間の距離を表すこと。また, 座標平面上の直線を方程式で表し, それを二直線の位置関係などの考察に活用すること ②座標平面上の円を方程式で表し, それを円と直線の位置関係などの考察に活用すること。イ 軌跡と領域 軌跡について理解し, 簡単な場合について軌跡を求めること。また, 簡単な場合について, 不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりすること。 ③角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角度の表し方について理解すること。 ④三角関数とそのグラフの特徴について理解すること。		
2 学期	50	三角関数 ⑤三角関数の基本的な性質 ⑥ 三角関数の加法定理 指数関数 ⑦指数の拡張 ⑧指数関数とそのグラフイ 対数関数 対数関数 ⑨対数 ⑩対数関数とそのグラフ 微分・積分 ⑪微分係数と導関数			⑤三角関数について, 相互関係などの基本的な性質を理解すること。 ⑥三角関数の加法定理を理解し, それを用いて2倍角の公式を導くこと。 ⑦指数を正の整数から有理数へ拡張する意義を理解すること。 ⑧指数関数とそのグラフの特徴について理解し, それらを事象の考察に活用すること。 ⑨対数の意味とその基本的な性質について理解し, 簡単な対数の計算をすること。 ⑩対数関数とそのグラフの特徴について理解し, それらを事象の考察に活用すること。 ⑪微分係数や導関数の意味について理解し, 関数の定数倍, 和及び差の導関数を求めること。		
3 学期	30	⑫導関数の応用 ⑬増減表 ⑭不定積分と定積分 ⑮面積			⑫導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ, グラフの概形をかくこと。また, 微分の考えを事象の考察に活用すること。 ⑬導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ, グラフの概形をかくこと。また, 微分の考えを事象の考察に活用すること。 ⑭不定積分及び定積分の意味について理解し, 関数の定数倍, 和及び差の不定積分や定積分を求めること ⑮定積分を用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求めること。		
評価の観点と方法		年間5回の定期考査・宿題考査・小テスト・模擬試験の結果・提出物を考慮し, 総合的な判断を行う。なお成績については1・2学期は10段階, 学年末は5段階で評価する。					

# 令和4年度 年間指導計画

東京都立雪谷高等学校

教科・科目	数学B (必修・ <u>必選</u> ・自選)	対象学年	2	単位数	2	予定授業時間	70
教科書	改訂版 高等学校 数学B(数研出版)	担当者	廣井聡之・池川芳美・田中信也				
副教材	4プロセス 数学Ⅱ+B(数研出版)						

目標		平面上のベクトル・空間のベクトル・数列について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。					
学期	時数	指導項目			指導内容		
1 学期	20	<p>&lt;平面上のベクトル&gt;</p> <p>①ベクトルとその演算</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベクトルの演算</li> <li>・ベクトルの成分</li> <li>・ベクトルの内積</li> <li>・三角形の面積</li> </ul> <p>②ベクトルと平面図形</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・位置ベクトル</li> <li>・ベクトルの図形への応用</li> <li>・図形のベクトルによる表示</li> </ul>			<p>① ベクトルの定義、加減法・実数倍の考え方、内積の計算、成分表示について理解し、図形的な意味を捉える。</p> <p>② 位置ベクトルの考え方から、図形上の点の位置をベクトルを用いて表現できるようにし、ベクトルを利用して平面図形の考察できるようにする。また、ベクトル方程式と媒介変数表示について理解し、位置ベクトルが表す点の存在範囲を求めることができるようにする。</p>		
2 学期	30	<p>&lt;空間のベクトル&gt;</p> <p>③ 空間ベクトル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空間の点</li> <li>・空間のベクトル</li> </ul> <p>④ 座標空間における図形</p> <p>&lt;数列&gt;</p> <p>⑤ 等差数列と等比数列</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数列と一般項</li> <li>・等差数列とその和</li> <li>・等比数列とその和</li> <li>・複利計算</li> </ul>			<p>③ 座標空間を定義し、その中で平面ベクトルの考え方を拡張していく。ベクトルの定義、加減法・実数倍の考え方、内積の計算、成分表示について理解する。</p> <p>④ 球面・平面の方程式について理解し、座標空間上で考察できるようにする。</p> <p>⑤ 等差数列・等比数列について理解し、公式を用いて和を求められるようにする。</p>		
3 学期	20	<p>⑥ いろいろな数列</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和の記号 <math>\Sigma</math></li> <li>・階差数列</li> <li>・いろいろな数列の和</li> </ul> <p>⑦ 漸化式と数学的帰納法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漸化式</li> <li>・数学的帰納法</li> </ul>			<p>⑥ <math>\Sigma</math>を用いた和の計算をできるようにする。また、数列の和の計算を応用させ、階差数列の一般項を求めたり、群数列を考察したりできるようにする。</p> <p>⑦ 数列の項の間の関係性を読みとり、漸化式から数列の一般項や和を求められるようにする。また、数学的帰納法について理解し、自然数についてのさまざまな証明に活用できるようにする。</p>		
評価の観点と方法		年間5回の定期考査・小テスト・提出物・授業中の取り組み状況を考慮し、総合的な判断を行う。なお成績については1・2学期は10段階、学年末は5段階で評価する。					

# 令和4年度 年間指導計画

東京都立雪谷高等学校

教科・科目	数学Ⅲ (必修・ <u>必選</u> ・自選)	対象学年	3	単位数	6	予定授業時間	150
教科書	改訂版 高等学校 数学Ⅲ (数研出版)	担当者	日下部 翔太・野呂瀬 健				
副教材	4プロセス 数学Ⅲ (数研出版)						

目標		平面上の曲線と複素数平面, 極限, 微分法及び積分法についての理解を深め, 知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに, それらを積極的に活用する態度を育てる.	
学期	時数	指導項目	指導内容
1 学期	66	<p>○微分法</p> <p>1. 導関数 アー関数の和・差・積・商の導関数 イー合成関数の導関数 ウー三角・指数・対数関数の導関数</p> <p>2. 導関数の応用 アー曲線の接線 イー関数の増減, 凹凸, 変曲点 ウー関数のグラフ</p> <p>○積分法</p> <p>1. 不定積分と定積分 アー基本的な性質 イー置換・部分積分法 ウーいろいろな積分</p> <p>2. 積分の応用 アー区分求積法 イー面積 ウー体積, 回転体の体積</p>	<p>○基本的な導関数が求められることができるようにする.</p> <p>○1. で学んだ導関数の計算をもとに, 接線の方程式を求めたり, 関数の増減や凹凸を調べることで, グラフを書くことができる.</p> <p>○積分の基本的な知識を知り, 基本的な計算することができる.</p> <p>○1. で学んだ積分の計算をもとに, 面積や体積を求めることができる.</p>
2 学期	80	<p>○平面上の曲線と複素数平面</p> <p>1. 媒介変数表示による曲線表示 2. 極座標による曲線表示 3. 複素数平面 アー複素数の図表示 イード・モアブルの定理</p> <p>○総合演習</p>	<p>○曲線が媒介変数を用いて表されることを理解する.</p> <p>○極座標の意味及び曲線が極方程式で表されることを理解する.</p> <p>○複素数平面と複素数の極形式, 複素数の実数倍, 和, 差, 積, 商の図形的な意味を理解する.</p> <p>○ド・モアブルの定理について理解する.</p> <p>○演習を通して, 既習内容の理解を深める.</p>
3 学期	4	○総合演習	○演習を通して, 既習内容の理解を深める.
評価の観点と方法		年間4回の定期考査・小テストを考慮し, 総合的な判断を行う。なお成績については1・2学期とも5段階で評価する。	

# 令和4年度 年間指導計画

東京都立雪谷高等学校

教科・科目	数学演習 I (必修・ <u>必選</u> ・ <u>自選</u> )	対象学年	3	単位数	2	予定授業時間	50
教科書		担当者	渡邊 直子・逢坂 範彦・廣井 聡之				
副教材	リンク 数学演習 I II AB(数研出版)						

目標		数学 I・Aの教科書の復習、標準な問題の演習、大学入試における重要な問題の演習といった幅広い難易度の問題演習を通して、大学入試における基本的な考え方や、解法の習得と理解を深める。					
学期	時数	指導項目			指導内容		
1 学期	22	<ul style="list-style-type: none"> <li>○数と式                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・式の計算</li> <li>・式の値</li> <li>・1次不等式</li> <li>・命題と証明</li> </ul> </li> <li>○2次関数                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・関数とグラフ</li> <li>・関数の最大・最小</li> <li>・2次方程式、2次不等式</li> <li>・2次関数のグラフとx軸の共有点</li> </ul> </li> <li>○図形と計量                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・三角比の基本</li> <li>・三角比と図形</li> </ul> </li> <li>○データの分析</li> <li>○場合の数と確率                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・場合の数、順列</li> <li>・組合せ</li> <li>・確率</li> </ul> </li> <li>○図形の性質                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形の角と辺</li> <li>・円と図形</li> </ul> </li> <li>○整数の性質                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・約数と倍数</li> <li>・不定方程式</li> <li>・整数の種々の問題</li> </ul> </li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元の公式や公理などの基本事項を確認する。</li> <li>○大学入試における基本的な考え方や、解法を習得する。</li> </ul>		
2 学期	26				<ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元の公式や公理などの基本事項を確認する。</li> <li>○大学入試における基本的な考え方や、解法を習得する。</li> <li>○既習事項を用いて標準的な入試問題を解く。</li> </ul>		
3 学期	2	○入試問題演習			○既習事項を用いて標準的な入試問題を解く。		
評価の観点と方法		年間4回の定期考査・授業態度を考慮し、総合的な判断を行う。なお成績については1・2学期とも5段階で評価する。					

# 令和4年度 年間指導計画

東京都立雪谷高等学校

教科・科目	数学演習Ⅱ（必修・ <u>必選</u> ・自選）	対象学年	3	単位数	4	予定授業時間	92
教科書		担当者	田中 信也・金子 康範				
副教材	リンク 数学演習ⅠⅡAB(数研出版)						

目標		数学Ⅱ・Bの教科書の復習、標準な問題の演習、大学入試における重要な問題の演習といった幅広い難易度の問題演習を通して、大学入試における基本的な考え方や、解法の習得と理解を深める。					
学期	時数	指導項目	指導内容				
1 学期	40	<ul style="list-style-type: none"> <li>○数学Ⅱ</li> <li>・式と証明</li> <li>・複素数と方程式</li> <li>・図形と方程式</li> <li>・三角関数</li> <li>・指数関数と対数関数</li> <li>・微分法と積分法</li> <li>○数学B</li> <li>・ベクトル</li> <li>・数列</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元の公式や公理などの基本事項を定着する。</li> <li>○大学入試における基本的な考え方や、解法を習得する。</li> </ul>				
2 学期	50	<ul style="list-style-type: none"> <li>○数学Ⅱ</li> <li>・式と証明</li> <li>・複素数と方程式</li> <li>・図形と方程式</li> <li>・三角関数</li> <li>・指数関数と対数関数</li> <li>・微分法と積分法</li> <li>○数学B</li> <li>・ベクトル</li> <li>・数列</li> <li>○入試問題演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元の公式や公理などの基本事項を確認する。</li> <li>○大学入試における基本的な考え方や、解法を習得する。</li> <li>○既習事項を用いて標準的な入試問題を解く。</li> </ul>				
3 学期	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○入試問題演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○既習事項を用いて標準的な入試問題を解く。</li> </ul>				
評価の観点と方法		年間4回の定期考査・授業態度を考慮し、総合的な判断を行う。なお成績については1・2学期とも5段階で評価する。					



# 令和4年度 年間指導計画

東京都立雪谷高等学校

教科・科目	数学演習Ⅲ (必修・必選・ <u>自選</u> )	対象学年	3	単位数	2	予定授業時間	48
教科書		担当者	日下部・野呂瀬				
副教材	リンク 数学演習Ⅲ(数研出版)						

目標		学習した内容をもとに、数学Ⅲに関する大学入試の一通りのパターンの問題演習を行い、基本的な解法の修得と理解を深める。					
学期	時数	指導項目	指導内容				
1 学期	24	<ul style="list-style-type: none"> <li>○関数</li> <li>○極限</li> <li>○微分法</li> <li>○積分法</li> </ul>	○演習を通して、基本的な解法や別解を知り、各単元の理解を深める。				
2 学期	22	<ul style="list-style-type: none"> <li>○式と曲線</li> <li>○複素数平面</li> <li>○入試演習</li> </ul>	○演習を通して、基本的な解法や別解を知り、各単元の理解を深める。				
3 学期	2	○入試演習	○演習を通して、基本的な解法や別解を知り、各単元の理解を深める。				
評価の観点と方法		年間4回の定期考査をもとに、総合的な判断を行う。なお成績については1・2学期とも5段階で評価する。					

# 令和4年度 年間指導計画

東京都立雪谷高等学校

教科・科目	共通テスト数学（自選）	対象学年	3	単位数	2	予定授業時間	70
教科書		担当者	田中慎平				
副教材	共通テスト対策実力養成重要問題演習 数学						

目標		教科書中心の学習から実践的な演習に移行する時期に分野別に基礎から応用まで体系的に演習することによって、共通テストに対応できる実力を着実に身に付ける。					
学期	時数	指導項目		指導内容			
1 学期	25	<ul style="list-style-type: none"> <li>○数学Ⅰ・A</li> <li>・数と式</li> <li>・2次関数</li> <li>・図形と計量</li> <li>・データの分析</li> <li>・場合の数と確率</li> <li>・整数の性質</li> <li>・図形の性質</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○数学Ⅱ</li> <li>・式と証明、複素数と方程式</li> <li>・図形と方程式</li> <li>・三角関数</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元の公式や公理などの基本事項を定着する。</li> <li>○公式や公理などの成り立ちや有用性を理解し、How型からWhy型の学習に切り替える。</li> <li>○読解力、情報の取捨選択力を高める。</li> <li>○大学入試における基本的な考え方や、解法を習得する。</li> </ul>			
2 学期	25	<ul style="list-style-type: none"> <li>○数学Ⅱ・B</li> <li>・指数関数と対数関数</li> <li>・微分法と積分法</li> <li>・数列</li> <li>・ベクトル</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実践演習</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元の公式や公理などの基本事項を定着する。</li> <li>○公式や公理などの成り立ちや有用性を理解し、How型からWhy型の学習に切り替える。</li> <li>○読解力、情報の取捨選択力を高める。</li> <li>○大学入試における基本的な考え方や、解法を習得する。</li> </ul>			
3 学期	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実践演習</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○既習事項を用いて標準的な入試問題を解く。</li> </ul>			
評価の観点と方法		年間4回の定期考査・授業態度等を考慮し、総合的な判断を行う。なお成績については1・2・3学期とも5段階で評価する。					